

J A 自己改革推進レポートについて

令和 6 年 3 月 2 6 日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

① J A グループ鳥取災害支援物資 石川県へ送る

J A グループ鳥取は 2 月 7 日、J A 石川県中央会から要請を受け、能登半島地震にかかる災害支援物資として、ペットボトルの飲料水 7 3 箱（1 箱あたり 2 ㍓・6 本入）を送った。被災地では断水など、通常の生活を送れない状態が続いており、被災地の支援に役立ててもらおう。

同日、J A グループ岡山と J A グループ広島
の支援物資が積み込まれた全農物流のトラックに J A グループ鳥取の支援物資が荷積みされ、8 日に石川県の志賀町役場に到着した。

J A グループ鳥取は 1 月末にも、避難所の炊き出しなどで使用される紙コップ 6 千個を発送。今後も支援募金活動など、全国の J A グループと連携し、支援の輪を広げていく。



② J A 人づくりと働きやすい職場づくりへ J A グループ鳥取理事・監事研修会

J A 鳥取県中央会は 3 月 4 日、琴浦町の「まなびタウンとうはく」で J A グループ鳥取理事・監事研修会を開催した。J A 職員の意欲向上や、やりがいのある職場づくりには役員のリダーシップ力が不可欠となることから、県内 J A の常勤・非常勤役員ら約 7 0 人が役割発揮に向け意識を高めた。

同会の栗原隆政会長は「人づくりは農業の土づくりと同じで愚直に取り組むことが必要。地域農業を次世代へ引き継ぐために活力ある職場づくりや人材育成を意識して取り組んで欲しい」と呼びかけた。

講師として、J A 福岡市の宗欣孝専務が登壇。「J A 福岡市の経営戦略と人づくりについて」と題して講演を行い、組合員との接点強化や組織の活性化に向けた取組事例などを紹介した。また、J A 福岡市日佐地区の高田茂美理事が組合員を巻き込み J A 職員の積極的な関わりを増やしていく取組事例を報告。参加者はよりよい職場環境づくりや、人材育成強化に理解を深めた。



③ J A 鳥取県青壮年連盟 創立70周年記念大会

J A 鳥取県青壮年連盟は3月9日、倉吉市の倉吉未来中心で創立70周年記念大会を開催した。「未来はここから始まる」をスローガンに掲げ、地域農業の担い手として盟友一人ひとりがリーダーシップを発揮し、持続的な組織強化と地域との関わりを強めていくことなどの大会宣言を満場一致で採択した。

大会には、盟友など約130人が参加。来賓に亀井鳥取県副知事、国会議員、J A とっとり女性協議会の福井会長、J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長らが出席し節目を祝った。同連盟の前田佳寛委員長は「農業をよりよいものにしていくため、盟友の思いを次世代へつないでいくとともに、今後10年先も農業者の立場で課題解決に取り組むためのJ A 青年組織であり続けたい」と決意を述べた。



④ 「きぬむすめ」特A受賞記念セレモニー

J A グループ鳥取と県は3月10日、鳥取市の地場産プラザ「わったいな」に隣接する「とりっこ広場」で、『「きぬむすめ」特A受賞記念セレモニー』を開催した。「きぬむすめ」は、日本穀物検定協会の令和5年産米の食味ランキングで4年連続9回目の特Aを取得した。

平井鳥取県知事をはじめ、J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長やJ A グループの代表者らがくす玉開きを行い、受賞を祝った。栗原会長は「あらためて生産者や関係者に感謝する。星空舞、コシヒカリを含めて夢のトリプル取得の実現に向けて取り組みたい」と話した。平井鳥取県知事は「絹のように白くてきれいな米。特A米をぜひ食べてほしい」と呼びかけた。



令和5年産は全国から144産地品種が出品され、「外観・香り・味・粘り・硬さ・総合評価」の計6項目について、日本穀物検定協会が食味試験を行った。県産米「きぬむすめ」を含む43銘柄が特Aを取得した。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み メディア向けセミナーで白バラ牛乳の魅力をPR

大山乳業農協は2月28日、東京都のとり・おかやま新橋館で鳥取県主催の「鳥取白バラ牛乳グルメフェア」の関連企画として開催された「白バラ牛乳メディア向けセミナー」に参加した。

同イベントは、牛乳消費が減少する寒い時期に牛乳の美味しさを知ってもらい、1杯でも多く牛乳を飲んでいただくことを目的として開催されたもので、参加した11メディアに向け、鳥取の酪農や白バラ牛乳のPRを行った。ミルク料理家の小山浩子さんは自身が考案した白バラ牛乳を使用したオリジナルメニューを紹介し、「白バラ牛乳はすっきりした中に甘味とコクがあり、他の食材の良さとミルクの風味が活かせる」と料理と相性の良い牛乳であることを紹介し、飲用以外の活用についても話をした。「鳥取白バラ牛乳グルメフェア」では、3月1日～14日、同アンテナショップ内のレストランで白バラ牛乳を使用したメニューが提供された。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み コープしが主催「商品大交流会」への参加

鳥取県畜産農協は2月17日、滋賀県大津市の大津プリンスホテルで開催されたコープしが主催の「商品大交流会」に参加した。

コロナ禍の影響により5年ぶりの開催となった。メインテーマを「ありがとう30周年～これまでもこれからも～帰ってきた！商品大交流会」とし、当日は生産者やメーカー約70団体がブースを設け、コープしがの組合員など約1000人が会場に訪れた。同農協も産直牛の試食販売を中心に、コープしがの組合員にあらためて産直牛の美味しさや安全安心についてアピールした。

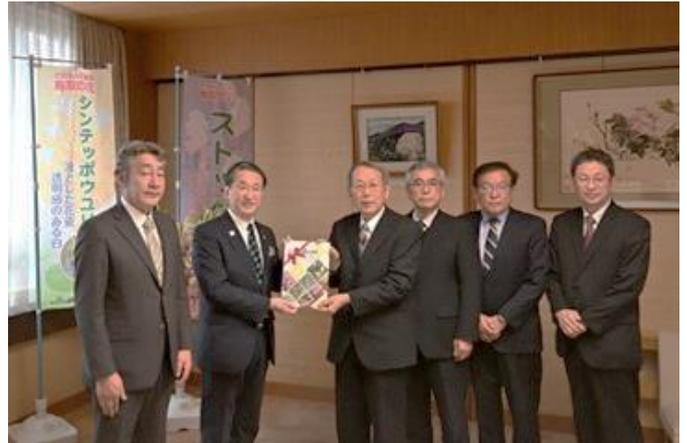


(4) JA全農とっどりの取り組み

①「とっどりの花沿革史」県知事への発刊報告

全農とっどりは1月10日、鳥取県庁で「とっどりの花沿革史」の発刊報告会を開催した。齊藤哲編集委員長をはじめ、編集委員、事務局（全農とっどり）が参加し、平井鳥取県知事に沿革史を贈呈した。

「とっどりの花沿革史」は、鳥取県内での花き栽培が始まってから現在に至るまでの産地の歴史や販売データ等の資料がまとめられており、今後の産地振興に繋げることを目的として全農とっどりが編集・発刊を行った。平井鳥取県知事は「県の花の魅力をぜひ多くの方々に知っていただき、農家さんが増えてほしい」と期待した。



②阪急宝塚駅で「星空舞」をPR

全農とっどりは2月2日、阪急宝塚駅で「星空舞」のPRを行った。星にちなんだPRということで、昨年引き続き宝塚歌劇「星組」の公演期間に合わせ、サンプリングの実施と「星空舞」やノベルティグッズをセットにしたプレゼントを配布した。駅の構内には「星空舞」ポスターを掲示した。

「星空舞」を受け取った利用者は、「星にちなんだPRで面白い」「自宅へ持ち帰って食べるのが楽しみ」と話した。

これからも認知度向上に向けた取り組みを行っていく。



(5) JA鳥取信連の取り組み

令和5年度 県内JA農業融資の実績について

令和5年度（令和5年2月～令和6年1月）の県内JAの農業融資新規実行額は、408件、1,322百万円（前年比+23件、+233百万円）となり、「農業近代化資金」および「新型コロナウイルス感染症および農業関連資材等価格高騰対策資金」の実行を主要因に、件数および実行金額とも前年を上回る実績となった。

また、「大規模な担い手経営体等への対応・支援」として、農業法人向け新規融資額は、上記実行額のうち427百万円（前年比+88百万円）と対応を強化している。

令和6年度も、農業融資の伸長施策「農業近代化資金への保証料助成制度」・「JAバンク利子補給制度」を継続することで、農家担い手の負担軽減および経営基盤強化の取組支援を行っていく。

(6) J A 共済連鳥取の取り組み

農作業体験VRを活用した安全啓発

農業は他産業と比べ死亡事故の発生率が高いものの、個人・家族経営が多く安全研修等への参加機会が限られているのが現状である。

J A 共済連鳥取では、研修会やイベントで農業者に農作業安全の学習機会を提供し、農作業事故の未然防止に貢献する取り組みとして「農作業事故体験VRを活用した農作業安全研修プログラム」を実施している。「VRヘッドセット」の貸出を行い、VRによる体験演習を通じて、事故の当事者の視点を360度リアルに体験し、農作業事故防止の重要性を再認識してもらおう。農作業安全研修や農機具展示会のイベントなどで導入いただいております、体験者からも好評である。

今後も「農作業事故体験VR」の活用促進を通じて、農作業事故の未然防止および農業全般にかかるリスクの再認識につなげていく。

以上